

市長訓示

平成31年4月26日（金）午後2時
本庁舎8階大会議室A

3期目、引き続き市政を担わせていただくことになりました。職員の皆さんは、引き続き市民の方のためにしっかりと仕事をしていただき、一緒に良い仕事をしていきたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、1つ目として政策についてです。将来を見据えた一歩先を行く市政を掲げましたが、他市と比べるのではなく、常に志高く、もっと良いサービスをより早くより多くの市民の方に提供できるよう、一歩先を行ってほしいと思っています。まずは、国の政策をしっかりと捉え、市として活用していくことを意識してほしいと思います。

津市の北部海岸の堤防整備、学校エアコンの設置や健康寿命を延ばす取り組みについては、かなり出来てきたと思います。なぜ出来てきたということについて反芻してみますと、職員が情報を受け流すのではなく、しっかりと捉えて、津市の事業に当てはめて考え、職員自身が動き、場合によっては副市長や私が動いてきたからだと思います。県都であることで、使える色々な政策もあると思いますので、これからも引き続き取り組んでほしいと思います。

年度初めに大規模特定河川事業が決まりました。相川が5年越し、6年越しでやってきたことですから、この補助制度が出来て本当によかったな

と思います。また、事業間連携事業というものが、同時に認められています。これは志登茂川の河川改修や栗真の海岸堤防の整備などがそれに当たりますが、こういったものも、我々の方でしっかりとアンテナを高く立ててこちらの希望をしっかりと伝え、かつ、理論武装をすることが重要だと思っています。国家公務員の方々は、最前線である実際の現場でどういう風なニーズがあってどういう風に予算を流せばどういう風に使ってもらえるのかということについて、イメージできていない部分も結構あると思います。我々が伝えるということによって、より国の政策を使えるということもあると思いますので、是非よろしくお願いします。

2 番目については、地域の課題にしっかりと寄り添っていくことです。個別の点の課題としてではなく、面の課題として捉え、向き合っていく必要があります。まず、荒廃農地の課題については、地域に飛び込み、地域の方と話をしながら解決策を探っていかななくてはならないと考えています。1 つ 1 つの農地について個別に解決していくことはできてはいますが、地域全体の荒廃農地を作らないようにするには、しっかりと JA などの関連団体や普及指導員、農業委員会等と連携をしていく必要があります、チームを作って解決して欲しいと思っています。

福祉については、昔の役場の時代には、職員が現場に入って絡んでいたもので、「どの現場に〇〇さんっていう職員さんがいたよね」という話をよく聞きましたが、今は、「今の総合支所の市民福祉課の職員はそこまでや

ってくれない」という話をよく聞きます。それは、決して職員の本意ではなく、本来であるならば現場に関わっていきたいと思っているにも関わらず、現在のシステムがそのようになっていないことがその理由だと思っています。そのような中で、地域の課題を皆さんの近くで捉え、どのように向き合っていくのかが課題となってきます。地域振興の事業も同様です。合併前の事業を引き続き行っていきたいという思いから行っておりませんが、地域の方の高齢化が進んできており、イベントの担い手が代わってきている中で、もっと地域が自在に決めていくことを考えていかななくてはならなくなっており、予算システムを変えていく必要があります。

そして、究極的なところでは、職員の採用についてです。地域で暮らして地域で働き、地域で自分たちの農地を管理したり、場合によっては地域でご両親の介護することも可能とする生活パターンを作っていかななくてはならないと考えたものが地域枠採用です。

3つ目は、持続可能な市政であります。経済の力が強くないとはならないと思います。ビジネスサポートセンターが行っているとおり、かなりの部分を自分たちでできることを見つけました。一般的な市役所でなく、津市は経済面での手の差し伸べ方、関わり方を発見することができています。最前線でやっていくことこそ、市役所の役目であります。そして、持続可能な市政には、財政を痛めず、引き継いでいくことが重要な1つのテーマであると考えており、平成29年度末において579億円の借金がある状

況となりますので、借金を減らすことを進めていきたいと思います。

以上が政策のことについてでした。

続いて、選挙についてです。結果として2回連続無投票となり、無投票であるがゆえに、反対する方の意思を投票行為を通じて示すことができなかったことについては、肝に銘じて驕ることなく謙虚に仕事をし、良い市政を築いていきたいと思います。

そのためには、地域声を謙虚に聴き続け、ただ聞くだけではなく、是非現場に聞きに行っていきたいと思っています。地域懇談会をこれまで222回実施しておりますが、それに加えて、職員の現場主義を実行してもらいたいと思います。市長が地域懇談会に行くから、事前に現場に行くことでも構いませんが、それだけでは寂しいですね。例えば、地域でトラブルがあったとして、担当が何回も現場に足を運んでいたとします。管理職について言うと、担当が行っているからしばらくいいかと担当に任せておこうという考えはいかがなものかと思っています。申し上げたことの逆をしてもらえれば良いわけですが、管理職が現場に出ていき、場合によっては担当とは違う視点から調整をして判断してもらえれば良いと思います。また、当然その地域で課題になっていること、あるいは、その分野の最先端でやっていることをしっかりと聞いてやってほしいと思います。

これからの津市政では、職員の皆さんには、3種類のアンテナを持って

ほしいと思います。1つ目は、高いアンテナを持ってほしいと思います。アンテナを高くしておくと色々な情報が入ってきます。2つ目は、広い範囲の声を拾えるパラボラアンテナのような広いアンテナを持ってほしいと思います。この微小な電波もキャッチする高いアンテナと微妙な角度からも入ってくるパラボラアンテナに加え、3つ目として現場に持っていく携帯用のアンテナを持ってほしいと思います。

2,500人の皆さんが現場主義をすればものすごい力となり、この市役所は本当に市民の役に立つことになります。この西丸之内の部長席に座っていることが仕事ではありません。この西丸之内を飛び出して、現場主義でやってほしい、百聞は一見如かずということだと思います。皆さんも既に経験していることと思いますが、芸濃こども園のことで、余りにも私の前での議論が抽象的で理論だけでなされていることに危機感を覚えて、議論をやめさせて、副市長と職員が現場を見てくるように指示をしました。すぐに現場を見に行った結果、いくつかの良かったことがありました。1つ目は、現場の声、つまり学校の先生や保護者の方々の意見を聞けたこと、2つ目は、私が感じていた不安ですが、現場を見ずに喋っていたのではないかという感覚の部分が、自分で見てもらったことでしっかりと話をしてもらえるようになったこと、3つ目は、副市長が現場に行くことによって、各部の部長・次長も一緒に行くことになり、各部間の横のつながりができたこと、複数の部に渡る部長が一度に話ができるようになったということ

が良かったと思います。ですから、皆さんには、現場主義を徹底していただいて、この前葉市政3期目が終わるころには、土日に市長が聞いてきたことは、当然把握済であること、あるいは、地域懇談会で出てくる話は、市民の皆さんとも1回は既に話をしているということ、実際にはいきなり出てくることもあるかと思いますが、それは全然かまいませんが、1回は話をしてあることがどんどん出てくるような状況になれば良いと思います。また、2人の副市長についても、副市長のイスにいるより、外の空気の方が吸いたいと思いますので、一緒に外へ行って、動く津市政を実現して行ってほしいと思います。

では皆さん、令和の新しい時代に一緒に良い仕事をやりましょう。どうぞよろしくお願いいたします。